

平成29年11月21日
四国地方整備局道路部
徳島河川国道事務所

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台において実証実験をスタート！ ～国重要文化財と周辺観光施設を結び新たな観光の流れを創出～

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、全国13箇所で、順次、実証実験を行うこととしております。

今般、**12月3日（日）から12月9日（土）**の間、道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台（徳島県三好市）において実証実験を実施します。実験では、国の重要文化財（祖谷のかずら橋）や観光拠点（かずら橋夢舞台）、宿泊施設等を結び、新たな観光の流れの創出に向けた検証等を行います。

また、実証実験の開始に合わせて、12月3日（日）に実験開始式を以下のとおり行いますので、お知らせ致します。（概要は添付資料をご覧ください。）

【実験開始式】

1. 日時：平成29年12月3日（日）12時00分から（雨天決行）
2. 会場：かずら橋夢舞台（徳島県三好市西祖谷山村今久保345-1）
3. 主催：道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台を拠点とした
自動運転サービス地域実験協議会
4. 概要：挨拶、実験概要説明、実験車両説明、テープカット、実験車両試乗会 等
※報道機関の方で、開始式の取材及び開始式における実験車両への試乗をご希望の方は、式典会場への入場の際、駐車証が必要となりますので、11月30日（金）17時までに下記問い合わせ先まで御連絡ください。

※本実験は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のプロジェクトの1つとして実施するものです。

問い合わせ先（○主な問い合わせ先）

■開始式、実証実験内容（取材・試乗申し込み）

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 電話 088-654-2211（代表）

副所長 かたおか ひろふみ 片岡 浩史 （内線）205

【開始式担当】○ 事業対策官 えがわ まさかつ 江川 昌克 （内線）308

【実証実験担当】○ 道路調査第一課長 すずき だいけん 鈴木 大健 （内線）451

■その他実証実験全般

国土交通省 四国地方整備局 道路部道路計画課 電話 087-811-8322（直通）

課長 ひのきだ ゆきのぶ 檜田 幸伸 （内線）4211

○ 課長補佐 くろぐち たかひろ 黒口 貴弘 （内線）4215

実験開始式の概要

○日時：平成29年12月3日（日）12時00分～

○場所：「かずら橋夢舞台」駐車場

（徳島県三好市西祖谷山村今久保345-1）

○主催：道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台を拠点とした
自動運転サービス地域実験協議会

○式典

受付開始 11時30分～

式典開始 12時00分～

- (1) 主催者挨拶
- (2) 来賓挨拶
- (3) 実験概要説明
- (4) 実験車両説明
- (5) 記念撮影、テープカット
- (6) 実験車両試乗

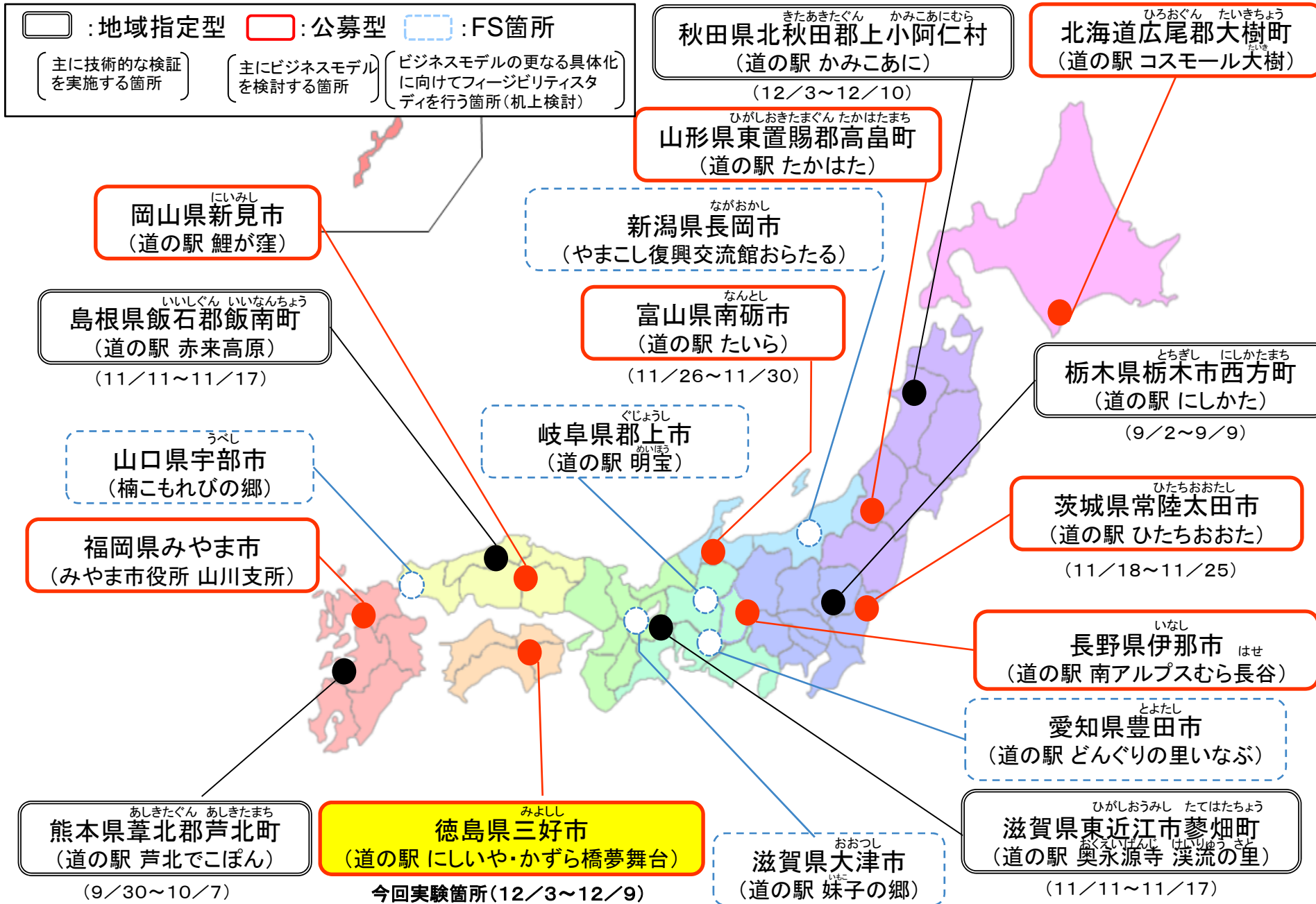
※式典終了後、事前登録している報道機関の方々や関係者が実験車両に試乗。

※報道機関の方で、取材・実験車両への試乗をご希望の方は、式典会場への入場の際、駐車証が必要となりますので、11月30日（木）17時までに徳島河川国道事務所（TEL088-654-2211 担当：鈴木または江川）まで御連絡ください。



会場案内図（かずら橋夢舞台内に駐車場あり）

平成29年度 実証実験箇所 位置図



バスタイプ

乗用車タイプ

①株式会社ディー・エヌ・エー



「レベル4」(専用空間)
 「車両自律型」技術
 (GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルートを行(点群データを事前取得))
 定員: 6人(着席)
 (立席含め10名程度)
 速度: 10km/h程度
 (最大:40km/h)

③ヤマハ発動機株式会社



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))
 「路車連携型」技術
 (埋設された電磁誘導線からの磁力を感知して、既定ルートを行)
 定員: 7人
 速度: 自動時 ~12km/h 程度
 手動時 20 km/h未滿

②先進モビリティ株式会社



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))
 「路車連携型」技術
 (GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより自車位置を特定して、既定のルートを行)
 定員: 20人
 速度[※]: 35 km/h 程度
 (最大40 km/h)

④アイサンテクノロジー株式会社 [今回使用]



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))
 「車両自律型」技術
 (事前に作製した高精度3次元地図を用い、LiDAR(光を用いたレーダー)で周囲を検知しながら規定ルートを行)
 定員: 4人
 速度[※]: 40km/h 程度
 (最大50 km/h)

レベル4: 運転手が運転席に不在で、車両側が運転操作を実施
 (ただし、交通規制により一般車両を排除した区間に限定)
 レベル2: 運転手は運転席に着席するが、ハンドル等を操作せず、車両側が運転操作を実施
 (ただし、緊急時は運転手がハンドルを握るなど運転操作に介入)

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適応
 GPS : Global Positioning System, 全地球測位システム
 IMU : Inertial Measurement Unit, 慣性計測装置

道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台 自動運転実証実験ルート(案)

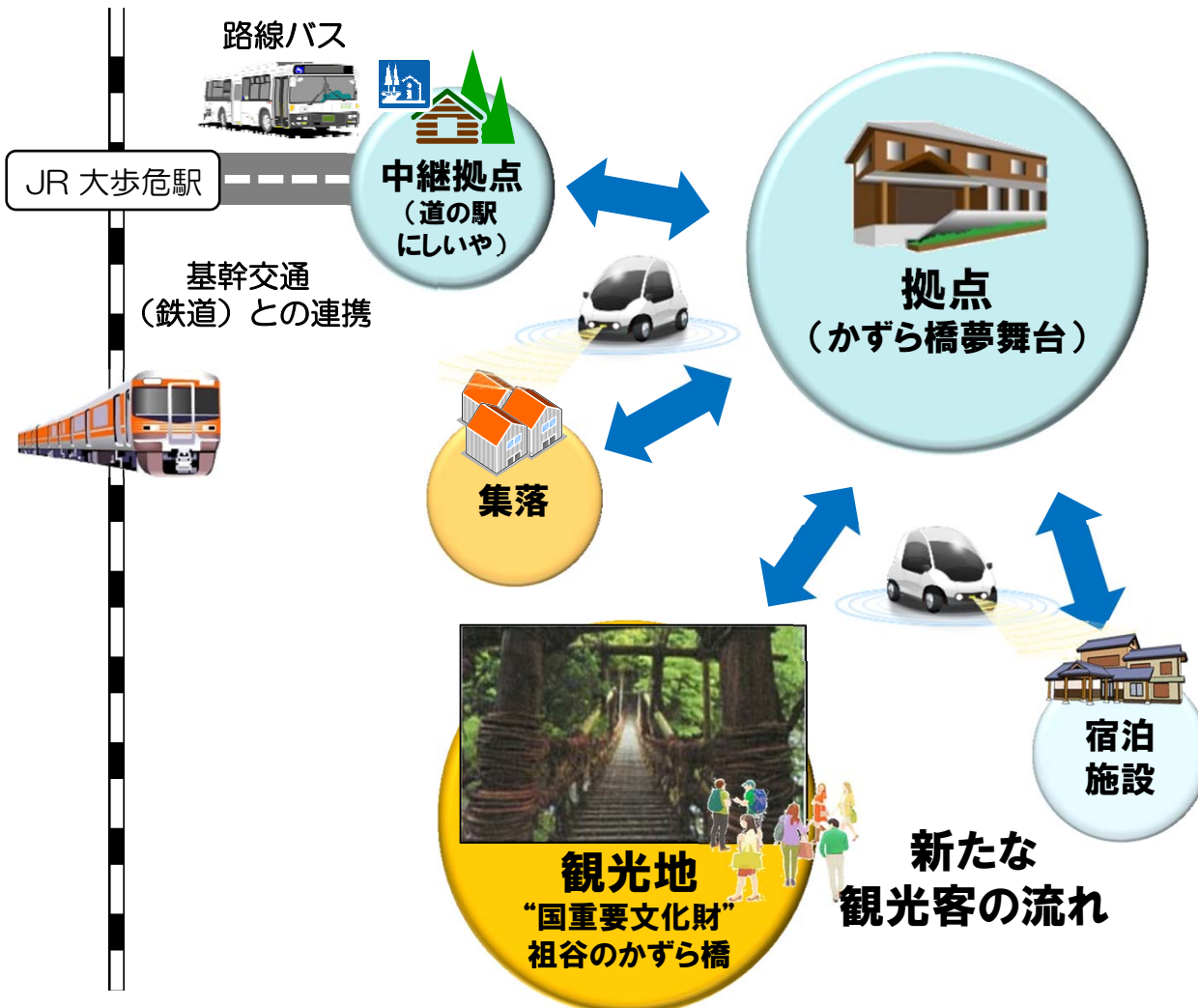


項目	実験において検証する内容
①道路・交通	<ul style="list-style-type: none">○相互に円滑な通行のための道路構造の要件<ul style="list-style-type: none">・後続車の追い越しを考慮した幅員・待避所、停留所の設置・歩行者、自転車との分離方法○自動運転に必要となる道路の管理水準<ul style="list-style-type: none">・植栽の繁茂・狭小幅員・路肩駐停車車両
②地域環境	<ul style="list-style-type: none">○Wi-Fi通信を用いた遠隔操作による走行状況の確認○降雨等による、LiDAR（光によるライダー）の検知能力
③コスト	<ul style="list-style-type: none">○車両の維持管理コスト
④社会受容性	<ul style="list-style-type: none">○自動運転技術への信頼性、乗り心地
⑤地域への効果 (ビジネスモデルの 検討含む)	<ul style="list-style-type: none">○新たな観光客の流れの創出<ul style="list-style-type: none">・観光拠点(かずら橋夢舞台)や宿泊施設から周辺観光施設への送迎実験・路線バスとの乗り継ぎ利便性○運営主体のあり方<ul style="list-style-type: none">・自治体や交通事業者等の役割分担○採算性確保の方策<ul style="list-style-type: none">・将来の観光利用ニーズ(支払意思額、求めるサービスレベル等)・将来の地域の協力体制(企業支援等)○他事業との連携<ul style="list-style-type: none">・実験参加者の将来参入ニーズ・新たな連携先のニーズ

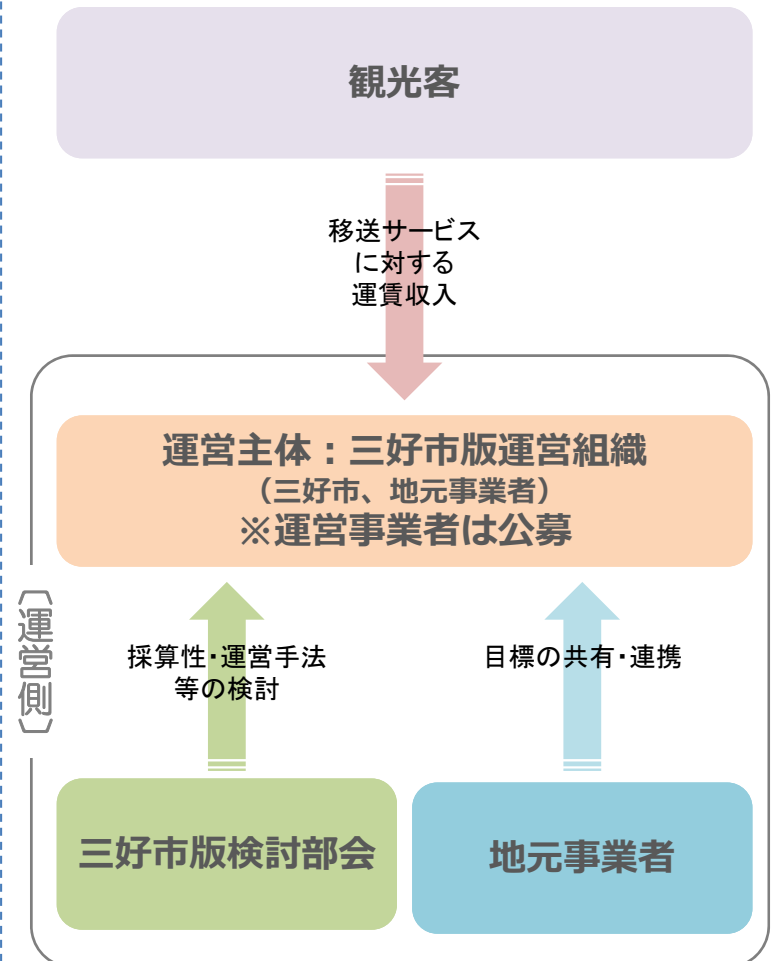
徳島県三好市：道の駅 にしいや・かずら橋夢舞台

- 大型観光施設を拠点に国重要文化財(かずら橋)や周辺観光施設等を接続し、新たな観光客の流れを創出
- 国重要文化財を訪れる観光客の滞在型観光を促進

<サービスイメージ>

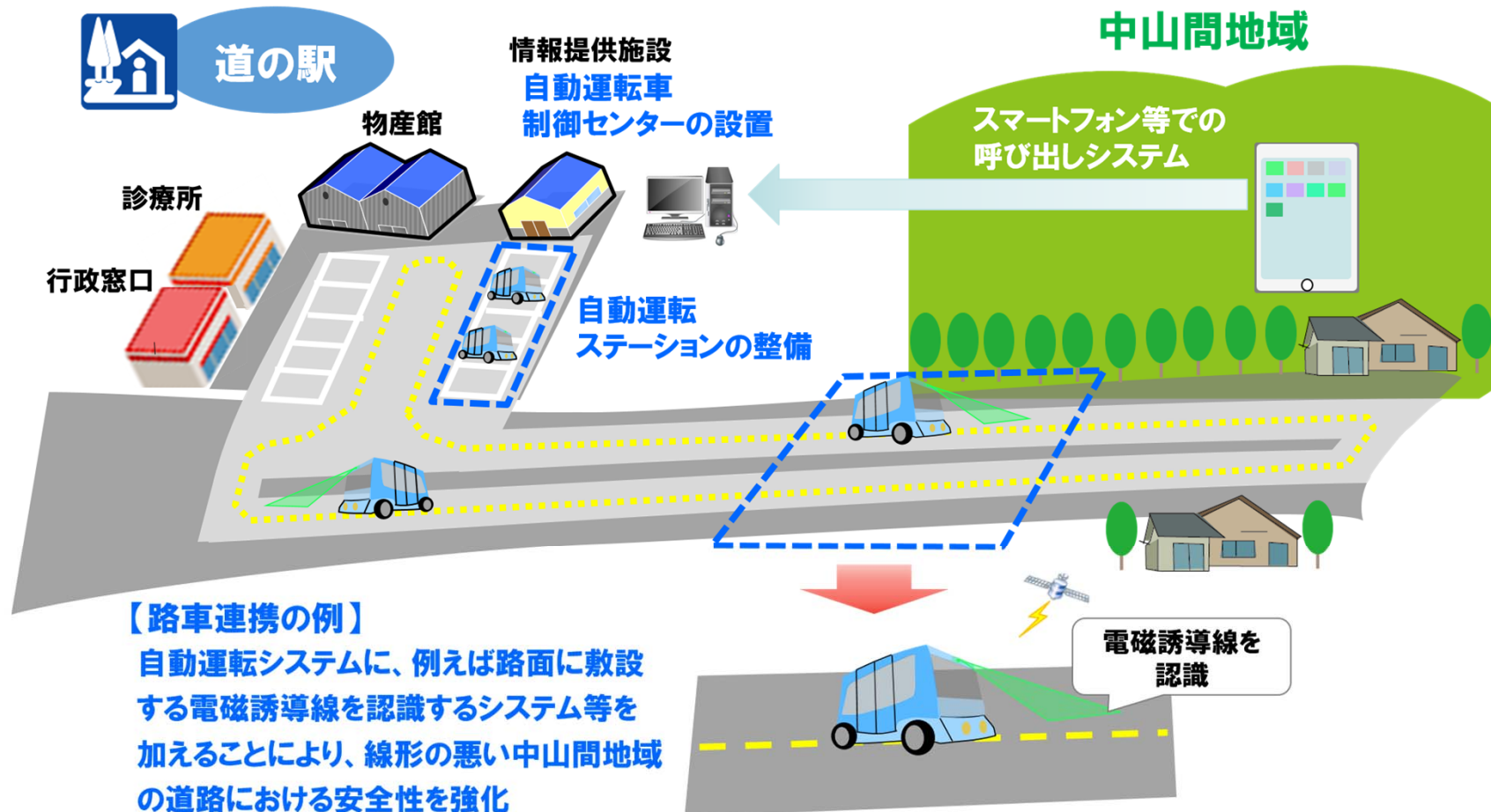


<ビジネススキーム>



※企画提案書をもとに国土交通省作成

●高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化
(観光・働く場の創造等)

全国13箇所で順次実験開始(9/2~)